

身近な行動で、世界は変えられる

～「それでも運命にイエスという。」上映イベントを通じて (12002A) ～

中居 秀美 (国際総合学類 3年 執筆者)

田中 宏明 (心理学類 3年)

堀下 恭平 (生物資源学類 3年)

映画との出会い

この映画「それでも運命にイエスという。」は、カンボジアのエイズ患者の実態を記録したドキュメンタリー映画で、「僕たちは世界を変えることができない。」のサイドストーリーとして作られました。当初、日本一周上映イベントの一環として、2011年3月15日の開催が予定されていたこの上映イベントは、予期せぬ大震災の影響で中止を余儀なくされました。しかし製作者の葉田さん・小川さんの強い希望と私たち学生の想いが繋がり、1年2ヶ月越しの2012年5月19日に、上映イベントを筑波大学で開催しました。

辛く困難な状況に置かれていても、自分の運命を受け入れ前向きに生きていく人々の様子を映し出したこの映画。参加者も自分の人生を見つめ直すきっかけになれば、そして明日からの毎日が少しだけ違うものになっていけば、というのが私たちの想いでした。

小さな国際協力

みなさん、「国際協力」と聞いて思い浮かべるものは何でしょう。砂漠の真中で井戸を掘っている様子、先進国の援助で建てられた立派な校舎、路上で暮らす貧しい子供たちへの支援…。「国際協力」と聞くと、自分とは無関係な活動、自分には何もできない、と思いがちです。しかし、途上国に行って深刻な現状に自ら立ち向かうことだけが、国際協力ではありません。それはもっと身近なところから始めることができ、ほんの小さなことでもいいのです。たとえば途上国の現状を「知る」こと。それだって立派な国際協力の1つです。

このイベントでは、自分ができる身近な行動が小さな「幸せ」を生み、それが繋がって大きな「幸せ」になることを、映画の鑑賞のみならず、映画製作者のゲスト講演、そして主催3団体の活動を紹介することで、参加者に感じ取ってもらえるようコンテンツを工夫しました。

身近な行動で、世界は変えられる

イベントの最後には、参加者それぞれが思う「幸せ



たくさんの方にご来場いただきました！



(左から、田中、中居、堀下)

を生む方法」を書き出してもらいました。身近なところで自分にできることはなんだろう、自分が幸せにできる人は誰だろう。そんなことをちょっと真剣に考える時間でした。最後には「幸」の文字になるように1枚絵にして会場に展示し、みなさんと幸せな瞬間を共有することができました。

当初の予定を大きく上回る100名を超える参加者と、32名のスタッフで作り上げたこのイベント。1つものを作り上げるために、活動の内容も幅も違う3団体が協力することで直面する困難は当然ありましたが、それ以上に得られた達成感や一体感、そして幸せの可能性はきっと今後の活動に生かされるものだと感じました。

「僕たちは世界を変えることができない」。確かにその通り、世界なんて大きなものを変えることはできません。しかし、日常を変えることはできます。自分の身近な行動で、身近な人が幸せになり、その人が行動を起こし…、と行動が連鎖し、幸せを生み続けられたら、あなたの毎日が、そして世界が変わっていく気がしませんか？

「身近な行動で、世界は変えられる」。参加者がそう感じていただけたなら、それは私たちの幸せです。

協力団体：TABLE FOR TWO筑波大学、WorldFut TSUKUBA、Study For Two筑波大学支部



会場の皆さんと大きな幸せを共有しました